

川西町新庁舎整備検討委員会
第2回委員会 議事録

- 1 日 時 平成29年9月25日(月) 午後7時～午後9時
- 2 場 所 川西町中央公民館 大ホール
- 3 委 員 長谷川潔美委員長 岡田清一副委員長 山口徳夫委員
星野廣志委員 松浦衛委員 山田順一委員 藤倉利英委員
安部眞委員 齋藤二男委員 菅美和子委員 吉村広喜委員
福島誠委員 井上清人委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 町出席者 町長 副町長 未来づくり課長 未来創造室長 税務会計課長
産業振興課長 地域整備課長 教育総務課長 健康福祉課長
事務局員5名
- 6 アドバイザー 公益財団法人山形県建設技術センター 1名

1 開会

司会(事務局)による開会。

2 町長挨拶

第1回委員会では貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。我々としても気がされた事が多く、いただいた意見を基本計画に反映していきたい。

9月20日に基本計画(案)を議会へ提示した。併せて将来の財政見通しも説明し、議会から様々な御意見をいただいたところである。

本日は議会へ説明した内容を中心に御説明申し上げ、御意見をいただきたい。

本日の後、9月28日から10月10日にかけて、各地区での説明会を行う。また、町民の御意見を反映するため、先週の金曜日からアンケートを開始した。本日時点で既に100通以上の回答をいただいている。

これらを踏まえ、10月中には基本計画を策定していきたいと考えている。

本日も忌憚のない御意見をお願いしたい。

3 委員長挨拶

本町の庁舎については、たまたま今までもっていいよかったと感じている。以前、自分が県立中央病院に勤務していた時、東日本大震災が発生した。その際、自家発電の燃料は3日分しかない状況だったが、県庁が被災しなかったため、県庁の差配でA重油を優先的に運んでもらった。これで多くの患者の命が救われたことを思い出した。本町の役場も災害発生時には重要な拠点となる。

本日も引き続き、様々な御意見をお願いしたい。

4 報告

(1) 第1回会議 議事録について

第1回会議の議事録について事務局が説明。

併せて、公表に際しては要点筆記とし、委員名は無記名とすることを提

案し、委員から了承を得た。

(2) アンケート及び各地区説明会の実施について

配付資料（川西町新庁舎整備基本計画（案）に係るアンケート、新庁舎整備基本計画（案）に係る各地区説明会開催要領）に基づき事務局が説明。

5 説明及び協議

(1) 川西町新庁舎整備基本計画（案）について

配付資料（川西町新庁舎整備基本計画（案）、同計画（案）の概要、庁舎建設に係る後年度実質負担の見通し）に基づき事務局が説明

【協議内容】

(委員)

議論を始める前に、我々の考え方としては、整備位置については町の場合で建設する前提に基づいて議論すべきものなのか。

(原田町長)

整備位置はまだ決定してはいない。町の場合を提示している段階と御認識いただきたい。

(委員)

寒河江市の庁舎は、昭和44年に黒川紀章氏のデザインで建設され、文化的価値があるということで、耐震強度が弱くても改築ではなく耐震補強とせざるを得ないと聞いた。本町は大丈夫か。

また、本町の合併年は昭和31年という認識だったが、計画書には昭和30年と記載されている。なお確認してほしい。

(原田町長)

本町の合併年は昭和30年。その年の1月に吉島村を除く1町5ヶ村が合併し、2月に吉島村が編入され現在の町の形となっている。

寒河江市については、本町と同様に耐震性の指摘を受けている。意匠性のある建築物のため、耐震工事を選択したようだ。

(建設技術センター)

寒河江市庁舎については、既存庁舎をジャッキアップして免振装置を入れる耐震工事を実施済みである。

(委員)

国の支援制度について、もし制度設計が変わった場合、どのように対応するのか。制度の変更も見据えた二段、三段構えが必要だと思う。

(原田町長)

国の動きについては引き続き十分に情報収集を行い、議論としては現行制度に基づき進めていきたい。

(委員)

以前に自宅の耐震補強を行った際、補強前の数値が約0.45だったところ、補強後は1.47まで上がった。その際、1.0以上だと倒壊しないとなっていた。今回の新庁舎はそれを満たすのか。耐震強度への考え方は。

(建設技術センター)

国が示している「官庁施設の総合耐震計画基準」では、構造体Ⅲ類で現行の建築基準法を満たし、震度6強の地震に耐えられるレベルとなっているが、新庁舎はその1.5倍の強度を確保したⅠ類を満たす構造としてゆく。

(委員)

アンケートはいつ作成したのか。作成に当たっては委員長等への確認行為はあったのか。

また、整備位置に関する設問について、この設問では位置が決まったかのような印象を受けるのではないか。「候補地としてどう思うか」という問いかけの方がいいと思う。

(事務局)

アンケートは前回の検討委員会開催後に作成を行い、9月22日に町議会へお示しした。また、このアンケートは町当局としての判断に基づき進めているもので、委員長等への確認行為は行っていない。

設問の仕方については、町議会への説明を踏まえ、あくまで町の案としてお示ししていると御理解いただきたい。

(委員)

事業手法については、「設計発注段階で検討」と記載があるが、期間が限られている中、その進め方で大丈夫か。

(事務局)

基本計画をまとめる段階で事業手法についても詰めていきたい。

(委員)

自分としては、町や町民の意見の反映、事業期間等を考えると、事業手法は従来方式、設計者の選定はプロポーザル形式が良いと思う。

(委員)

計画人口について、現状でも人口が大きく減り続ける中、総合戦略の目標人口を使用するのは適当と言えるのか。職員数の197名にしても、そこまで人数が必要なのか。第1回会議の資料を見ると、他の自治体の職員数はそこまで多くない。

また、整備位置を検討する際の基本的な考え方である地方自治法第4条第2項があまり深くわからない。加えて、「多大な用地費等」とはどれくらいを多大と考えているのか。

計画書には、整備位置について現庁舎地と町の案の比較となっているが、他の場所は検討したのか。交通の利便性を考えると、羽前小松駅の西側の町民は

線路を越えなければならなくなる。町の案で進めるなら、もっと長期的なまちづくりの構想が必要。

事業手法については、いい庁舎を建設してもらえるよう、きちんとした対応を検討してほしい。また内容が難しいので、わかりやすく整理した上で手法を絞り込んでいく必要があると思う。

(事務局)

計画人口については、現在の本町の各種事業は総合計画及び総合戦略に基づき進めているところであり、総合戦略を基本指標としたい。

職員数について、他の自治体の事例は、各施設に入居予定の職員数であり、庁舎以外の施設にも職員がいる。また、人口が減少を続けている一方、国の新たな制度に基づく業務が各市町村に降りてくるなど、行政需要は増大しているため、新庁舎についても、将来の行政需要の変化に対応できる可変性を持つ必要があると考えている。

整備位置に関する「多大な用地費等」については、用地費のみならず、道路や上下水道等の周辺環境整備費も含めて検証を行ってきた。また他の場所については、第1回委員会で説明した経過に基づき、現庁舎地と町の案に絞り込んできた状況である。

町民の利便性に関して、交通アクセスは重要な課題と認識している。

(原田町長)

基本計画(案)の中でお示しした事業費は、我々としては上限として捉えている。今後設計段階において詳細な事業費を詰めていきたい。

職員数については、平成33年度の体制で実質的に新庁舎に入居することとなり、現在と同等の人数は必要となる状況。将来的に様々な活用ができるような整備をしていきたい。

(委員)

「多大な」という言葉が非常に引っかかっている。一般的には数字として捉えられる表現であり、内容を理解してもらうには難しいのではないか。

また将来財政負担の話は、正直、理解するに非常に難しいと感じ、あまりピンときていない。もっと分かりやすい説明をお願いしたい。

(原田町長)

「多大な」という表現については、私が今年の2月に庁舎整備の前倒しをお示しし、検討を進める中で、町の将来を考えた場合に多大な費用とならないようという観点で考えたもの。

これまで整備位置については、多目的グラウンドや埋蔵文化財資料館跡地等も検討してきたが、下水道整備が必要などの課題があり、そのような課題と将来のまちづくりの発展性も踏まえ、現在のような整理となっている。

財政については、毎年度の起債額を10億円程度として今後の事業を進めることで、将来負担の平準化を図っていきたい。資料については、方向性の示し方も含めて工夫していく。

(事務局)

平成29年度の起債額が全体で約12.6億あるうち、実際に事業に充当しているのは10億程度。またその10億のうち4億程度がパークゴルフ整備に充当している。平成33年度にはパークゴルフ整備に係る事業は完了している。

(委員)

将来負担については、現在毎年度1億ずつくらい積み立てている基金を将来は借金返済に回すことで、町民の負担は増えないと捉えた。

町民の一番の関心は毎年の借金が増大しないかどうかだと思うので、もっと噛み砕いて説明できるとよい。

(原田町長)

持ち帰って検討する。

(委員)

先ほど、利便性の関連で線路を越えるのが大変という話題があったが、現代はパソコン1つでテレビ電話やテレビ会議も可能なので、そのような手法で利便性を確保することもできると思う。

(委員)

今回の庁舎整備においては、人口が減る中で財政負担が増えるという状況にあるので、川西の地場産業の発展や人口を減らさない工夫等の観点も計画の中に入れてほしい。町の人が働ける環境を作っていくことが大事。

(委員)

本日の内容は非常に難しく感じた。

アンケートに関しては、特に事業費について随分かかるという印象が自分の周りでも多かった。なぜこれくらいかかるのかをきちんと説明する工夫をお願いしたい。

(委員)

アンケートについては、非常にわかりやすいと思った。財政資料は難しいので、もっとわかりやすくなるとよい。

また跡地利用については、庁舎ができた後に考えるのでは遅いと思う。

(原田町長)

庁舎整備と跡地利用検討は同時だと思っている。ソフト面も含めて考え方を示していきたい。

(委員)

子供の代に借金を残さないことや人口を減らさない対策は重要。加えて、川西は置賜の中心であることをもっとアピールしていくべき。

皆で頑張る姿勢、未来を明るくする姿勢を示してほしい。

(委員)

後年度の負担について、跡地利用が加わると更に負担が増えるのか。

また跡地利用については、小松の中心部がもっと発展するような形が必要だ
と思う。

(事務局)

跡地利用も平成33年度以降の単年度10億の起債の中で対応し、追加の負
担とならないように進めていきたい。

(委員)

アンケートは、若い人達の意見はあまり上がってこないと思う。最近
は町報を見る人も少ない気がする。若い人の意見の汲み取り方、アンケートの反映の
仕方など、工夫してほしい。

(2) 第3回委員会について

第3回委員会の日程について、事務局が、平成29年10月19日(木)
開催の提案を行い、了承された。

6 その他
特になし。

7 閉会
司会(事務局)による開会。